

Title	政府の銀行に果たす役割についての理論・実証研究
Sub Title	Theoretical and empirical studies on roles on banks played by governments
Author	渡部, 和孝(Watanabe, Wako)
Publisher	
Publication year	2016
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2015.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>第一に、個別銀行の財務、株式データを用い、銀行が預金保険制度にリスクを転嫁するモラルハザードに陥ってること、適切に設計された公的資金の自己資本の不十分な銀行への注入によりリスク転嫁が緩和されたことがわかった。第二に、国際金融市場におけるショックの国内中小企業への伝播について、エマージング国の上場大企業、及び、未上場中小企業の財務、企業情報のデータセット整備中であり、その完成後に、実証分析を開始する。第三に、日本において、1997年度に自己資本不十分により融資を大幅に削減したメインバンクを持つ企業ほど1997年12月からの16ヶ月間に中小企業金融公庫からの借入額が大きかったことがわかった。</p> <p>First, using data about financial statements and stocks of individual banks, we find that Japanese banks engaged in the moral hazard of shifting risks to the deposit insurance system and that, infusions of well-designed public capital into poorly capitalized banks mitigated the extent of banks' risk-shifting. Second, regarding an issue of the transmission of shocks in international financial markets to domestic firms and smaller unlisted firms in emerging economics. We will begin empirical exercises when the dataset is complete. Third, we find that in Japan a firm whose main bank reduced lending more greatly due to poorer capital adequacy in fiscal year 1997 borrowed larger amounts of loans from the Japan Finance Corporation for Small and Medium Enterprise during a 16 month period starting in December 1997.</p>
Notes	<p>研究種目：基盤研究(C)(一般) 研究期間：2012～2015 課題番号：24530360 研究分野：応用マクロ経済学, 銀行行動</p>
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_24530360seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530360

研究課題名(和文) 政府の銀行に果たす役割についての理論・実証研究

研究課題名(英文) Theoretical and Empirical Studies on Roles on Banks Played by Governments

研究代表者

渡部 和孝 (Watanabe, Wako)

慶應義塾大学・商学部・教授

研究者番号：80379106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、個別銀行の財務、株式データを用い、銀行が預金保険制度にリスクを転嫁するモラルハザードに陥っていること、適切に設計された公的資金の自己資本の不十分な銀行への注入によりリスク転嫁が緩和されたことがわかった。

第二に、国際金融市場におけるショックの国内中小企業への伝播について、エマージング国の上場大企業、及び、未上場中小企業の財務、企業情報のデータセット整備中であり、その完成後に、実証分析を開始する。

第三に、日本において、1997年度に自己資本不十分により融資を大幅に削減したメインバンクを持つ企業ほど1997年12月からの16ヶ月間に中小企業金融公庫からの借入額が大きかったことがわかった。

研究成果の概要(英文)：First, using data about financial statements and stocks of individual banks, we find that Japanese banks engaged in the moral hazard of shifting risks to the deposit insurance system and that, infusions of well-designed public capital into poorly capitalized banks mitigated the extent of banks' risk-shifting.

Second, regarding an issue of the transmission of shocks in international financial markets to domestic firms and smaller unlisted firms in emerging economics. We will begin empirical exercises when the dataset is complete.

Third, we find that in Japan a firm whose main bank reduced lending more greatly due to poorer capital adequacy in fiscal year 1997 borrowed larger amounts of loans from the Japan Finance Corporation for Small and Medium Enterprise during a 16 month period starting in December 1997.

研究分野：応用マクロ経済学、銀行行動

キーワード：預金保険 モラルハザード 金融ショックの国際的伝播 中小企業金融公庫

1. 研究開始当初の背景

政府の銀行(預金取扱機関)への関わりは以下の4種類に大別される。

(1)政府は銀行経営の健全性の確保を目的とした規制監督機関としての役割を果たしている。

(2)政府の運営する預金保険制度により、銀行の破綻時の預金が保証されている。

(3)銀行の経営悪化がシステミックリスクの原因となる場合や企業への円滑な融資の障害になると判断される場合、公的資本を注入して銀行の経営健全化を促す。

(4)政府は銀行の所有、民間銀行の融資への保障付与を通してクレジットリスクを引き受ける。

(1)から(4)に関してこれまでの実証研究の進展は以下の通りである。

(1)と(3)については、自己資本比率に基づいた監督制度を前に銀行の資産査定が進み、銀行の自己資本が低下、貸し渋り、追い貸し(経営パフォーマンスの悪い企業への救済融資)といった融資の歪みをもたらされたこと、公的資金により融資の歪みが是正されたことが示されている。(Peek & Rosengren, 2005; Woo, 2003, Watanabe, 2007, 2010, Allen et al., 2011)

(1)、(2)、及び、(3)については、預金保険による預金全額保護が行われたが、銀行のモラルハザード(リスクの取り過ぎ)は加速しなかったこと、早期は正措置や適切な仕組みの公的資金注入にモラルハザード抑制効果があったことが示されている。(Guizani & Watanabe, 2011)

(4)については、保証料に借り手企業のクレジットリスクを反映させない固定保証料制度の融資保証制度は、質の低い企業が融資を受けるいわゆる逆選択を引き起こすだけでなく、借り手企業の経営パフォーマンスを引き下げることが示されている。(Uesugi et al. 2010)

2. 研究の目的

政府の銀行に果たす役割についてのこれまでの理論・実証研究の発展・改善を目的とする。補助金申請時点では、預金保険制度とモラルハザード、銀行の所有形態とパフォーマンスの関係、二段階規制と銀行行動、政府系金融機関の融資と借り手の政治への親密性との関係、震災の被害を受けた地域金融の政策支援の5テーマの実施を計画していたが、現在は以下の3テーマに集約されている。

テーマ1. 預金保険制度とモラルハザード

本テーマでは、上記、Brahim & Guizani (2011)を基に、英文査読雑誌の改訂要求に従って論文を改定、公刊することを目的とするものである。

テーマ2. 国際金融市場におけるショックの国内金融市場への伝播

本テーマでは、世界中のエマージング国を対象に、エマージング国の上場大企業が、国際債券市場で、主に、エマージング国にとっての外貨建て(ドル、ユーロ、円など)の債券発行により資金調達をし、調達資金の余資を国内銀行に預金しているという事実が注目されている。国内の中小企業にとっては、国際金融市場での資金調達が困難なので、資金調達を国内銀行からの借入りに依存している。近年は、各国の金融政策が超緩和的であり、外貨建ての債券での調達金利は非常に低いため、国内大企業の預金により容易に資金調達が可能な国内銀行による融資の原資は潤沢で、国内の中小企業の国内銀行からの借入れも円滑である。ただし、各通貨圏の金融政策が引き締めになった場合、国内銀行の国内大企業の預金による資金調達が困難になり、国内中小企業の借入れによる資金調達に深刻な支障が生じる可能性がある。本テーマでは、国内大企業の債券発行による資金調達と国内銀行への預金の関係、国内銀行の預金による資金調達と国内中小企業の借入れによる資金調達の関係を検証することを目的とする。

テーマ3. 政府系金融機関の貸し渋り対策融資の企業の収益性への影響

1990年代後半の日本の銀行危機では、(民間)銀行の自己資本が大量の不良債権処理により大幅に毀損し、自己資本とリスク加重資産の比率である規制上の自己資本比率が低下したため、銀行は規制上リスク度が高いとみなされている企業向け貸し出金を削減する、いわゆる貸し渋りを行い、自己資本比率の引き上げを試みた。このような状況で、政府系金融機関、とりわけ、資金調達を銀行借入りに依存している中小企業を融資対象とする中小企業金融公庫(中小公庫)が貸し渋りの影響を受けて資金調達が困難になった企業に融資の比重を置いたか検証することを第一の目的としている。また、仮に、このように貸し渋りの影響を受けた企業に中小公庫の融資が重点的に配分されたとして、このようにして貸し渋り対策として中小公庫から融資を受けた企業の事後的な収益性について検証することを第二の目的としている。

3. 研究の方法

テーマ1. 英文査読雑誌の査読者の要求に応じて、Guizani & Watanabe (2011)で得られた主な結果が頑健であるか、さまざまな検証を行う。特に銀行のリスクテイクの指標として、株式市場のデータを用いた指標や財務データを用いた指標を計算し、銀行のリスクテイクと預金保険の制度設計、金融監督規制、公的資金注入の関係について検証を行う。

テーマ2. 実証的に検証するべき仮説の設定のため、先行研究をサ・ベイする。エマージ

ング国の上場、未上場企業の財務データ、企業情報を購入、整備する。

テーマ 3. 本研究は、中小企業公庫の後進機関である日本政策金融公庫中小企業事業部から中小公庫の企業との融資契約についてのデータベース、中小企業の財務データベース、及び、中小企業の民間金融機関との間の関係を記録したデータベースの利用の許可を得て実証研究を行う。具体的には、1997年12月から1998年3月までの中小公庫の融資契約のデータを収集し、各契約について借り手企業のメインバンクを識別する。また、各メインバンクの自己資本不足に起因する貸出供給の削減（貸し渋り）の度合いをWatanabe (2007)で用いた推計式を基に計算する。さらに企業毎に中小公庫からの借入の合計額を計算し、企業のメインバンクの貸出供給の削減の度合いとの関係を検証する。さらに、操作変数法を用い、企業の中小公庫からの借入額の合計のうち、企業のメインバンクの貸し渋りの度合いで説明できる部分と財務データから計算できる企業の事後的な収益性の指標と関係を検証する。

4. 研究成果

テーマ 1. Guizani and Watanabe (2011) を改定し、現在、Journal of Financial Stability に修正の上、再投稿中である。今回の再投稿に向けた修正では、あらたに、預金保険の保護上限額の撤廃により、個別行のリスクの銀行セクター全体のリスクに与える影響の度合いであるシステミックリスクが、預金保険の保護上限額の撤廃による完全保険化の下で低下すること、システミックリスクは公的資金の注入により低下することが明らかになった。

テーマ 2. まだデータの整備中であり成果は出ていない。

テーマ 3. 自己資本の充足度が低く、1997年度に貸出供給を減らした度合いの大きい銀行をメインバンクに持つ企業ほど、1997年12月から1999年3月にかけての期間に中小公庫から運転資金を借り入れた金額が大きいことがわかった。このような関係は中小公庫からの設備資金借入れに関しては見いだせなかった。中小公庫の貸出と企業のメインバンクの貸し渋りの度合いの関係については、Sekino and Watanabe (2014)としてディスカッションペーパーにしている。さらに、貸し渋り対策としての中小公庫からの借入額が大きい企業の事後的な収益性は借入れ後数年は借入れ額の小さい企業の収益性に比べて低いものの、その後はその差はないことが明らかになった。

<引用文献>

Allen, Linda, Supama Chakraborty and Wako

Watanabe, "Foreign Direct investment and Regulatory Remedies for Banking Crises: Lessons from Japan," Journal of International Business Studies, 42(7), 2011, pp. 875-893.

Guizani, Brahim and Wako Watanabe, "Public Capital, the Deposit Insurance and the Risk-Shifting Incentive: Evidence from the Regulatory Responses to the Financial Crisis in Japan" mimeo, Keio University, 2011.

Uesugi, Ichiro, Koji Sakai and Arito Ono, "The Effectiveness of Public Credit Guarantees in the Japanese Loan Market," Journal of the Japanese and International Economies, 24(4), 2010, pp. 457-480.

Watanabe, Wako, "Prudential Regulation and the 'Credit Crunch': Evidence from Japan," Journal of Money, Credit and Banking, 39(2-3), 2007, pp. 639-665.

Watanabe, Wako, "Does a Large Loss of Bank Capital Cause Evergreening? Evidence from Japan," Journal of the Japanese and International Economies, 24(1), 2010, pp. 116-136.

Woo, David., "In Search of 'Capital Crunch': Supply Factors Behind the Credit Slowdown in Japan," Journal of Money, Credit, and Banking, 35(6), 2003, pp. 1019-1038.

Peek, Joe, and Eric S. Rosengren, "Unnatural Selection: Perverse Incentives and the Misallocation of Credit in Japan," American Economic Review 95(4), 2005, pp. 1144-1166.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

「クレジットクランチ期における政府系金融機関による民間銀行代替の検証」関野雅弘、渡部和孝、『日本経済の課題と針路』吉野直行・亀田啓悟・中東雅樹・中田真佐男、査読有、第12章、2015、pp. 235 - 254.

「不動産担保融資が成約価格に及ぼす影響」小滝一彦、倉島大地、水永政志、渡部和孝、『土地総合研究』、一般財団法人土地総合研究所、査読無、22(2)、2014、pp. 8-14.

「不動産担保融資と売買価格のマイクロデータの構築」小滝一彦、倉島大地、水永政志、渡部和孝、『住宅土地経済』、公益財団法人日本住宅総合センタ、査読無、91、2013、pp. 29-35.

"Are Trade Creditors Relationship Lenders?" Uchida, Hirofumi, Gregory F. Udell and Wako Watanabe, Japan and the World Economy, 査読有、25-26, 2013, pp. 24-38.

"The Decision-Making Mechanism of Regional Financial Institutions and the Utilization of Soft Information," Nemoto,

Tadanobu, Yoshiaki Ogura and Wako Watanabe, Public Policy Review, 査読無, 9(1), 2013, pp. 87-116.

「地域金融機関の意思決定構造とソフト情報の活用」小倉義明, 根本忠宣, 渡部和孝『フィナンシャル・レビュー』, 財財務省財務総合政策研究所, 査読無, 2012年第2号, 2012, pp, 31-53.

「外銀のアジア進出と収益性、効率性について」渡部和孝, 『アジア経済圏における金融・資本市場の発展に向けた課題とわが国金融機関が果たすべき役割』, 金融調査研究会, 査読無, 2012, pp. 77-87.

〔学会発表〕(計 7件)

Wako Watanabe, "Does the Policy Lending of the Government Financial Institution Mitigate the Credit Crunch? Evidence from the Loan Level Data in Japan," WEAI 12th International Conference, 2016年1月8日, Nanyang Technological University, Singapore.

Wako Watanabe, "Does the Policy Lending of the Government Financial Institution Mitigate the Credit Crunch? Evidence from the Loan Level Data in Japan," WEAI 90th Annual Conference, 2015年7月2日, Hilton Hawaiian Village, Waikiki, USA.

Wako Watanabe, "Is Leverage a Determinant of the Asset Price? Evidence from the Real Estate Transaction Data," WEAI 11th International Conference, 2015年1月9日, Museum of New Zealand Te Papas, Tongarewa, Wellington, New Zealand.

Wako Watanabe, "Does the Policy Lending of the Government Financial Institution Substitute the Private Lending during the Period of the Credit Crunch? Evidence from the Loan Level Data in Japan," 第8回地域金融コンファランス, 2014年8月26日, 早稲田大学, 東京都新宿区.

Wako Watanabe, "Is Leverage a Determinant of the Asset Price? Evidence from the Real Estate Transaction Data," World Finance and Banking Symposium, 2013年12月16日, Finance School, Central University of Finance and Economics, Beijing, China.

Wako Watanabe, "Foreign Entry and Banking Efficiency in Asia," 日本経済学会秋季大会, 2012年10月8日, 九州産業大学, 福岡県福岡市.

Wako Watanabe, "Foreign Entry and Banking Efficiency in Asia," International Conference, "International Competition in Banking: History and Practice," 2012年5月24日, Ukrainian Academy of Banking, Sumy, Ukraine.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
渡部 和孝 (WATANABE, Wako)
慶應義塾大学・商学部・教授
研究者番号: 80379106

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
()

研究者番号: